

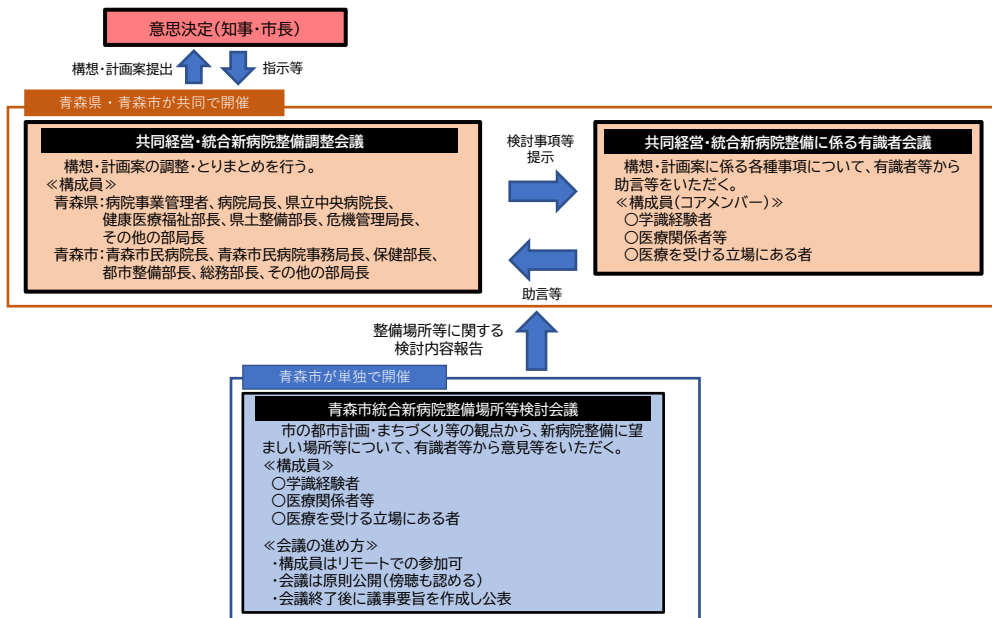
青森市統合新病院整備場所等検討会議

検討概要

令和6年4月

青森市

統合新病院整備 整備場所等に係る検討体制



青森市統合新病院整備場所等検討会議など スケジュール

回次	年月	議題
第4回 調整会議	令和4年12月10日(土)	(1) 共同経営・統合新病院の検討対象地に係る外部有識者からの意見聴取について 【意見聴取した主な事項】 (1) 災害関連 ①地震、津波による影響想定 ②地震、津波、洪水による被害想定及び対策(周辺環境、病院施設) ③地震、津波、洪水による診療・運営面への影響 など (2) 救急搬送 ①救急搬送の観点からの課題及び新病院整備場所として望ましい条件 ②検討対象地に対する救急搬送の観点での考え など (3) 通院アクセス ①病院へのアクセス手段についての考え ②新病院整備による周辺道路での混雑などの影響及び対策 ③検討対象地に対するアクセスについての考え など (4) 都市計画(まちづくり) ①新病院がまちづくりに与える影響及び整備場所の要件 ②郊外に新病院を整備することにより新たな人の流れを伴うこと ③検討対象地に対する都市計画(まちづくり)の観点から将来に与える影響 など
第1回 検討会議	令和5年11月20日(月)	(1) 整備場所の検討対象地選定の考え方について (2) 整備場所の検討事項について
第2回 検討会議	令和5年12月22日(金)	(1) 第1回検討会議の議事要旨について (2) 統合新病院の整備に望ましい場所について
第3回 検討会議	令和6年1月26日(金)	(1) 第2回検討会議の議事要旨について (2) 統合新病院の整備に望ましい場所について (3) 跡地利用の方向性について

青森市統合新病院整備場所等検討会議 構成員

■学識経験者(五十音順)

青森市都市計画審議会委員	役職名	氏名	備考
○	青森公立大学経営経済学部地域みらい学科 准教授	足達 健夫	座長
○	青森市浪岡商工会 会長	一戸 善正	
○	青森商工会議所 専務理事	葛西 崇	
○	青森県建築士会 副会長	工藤 真人	
○	青森市農業委員会 会長	福士 修身	
○	青森県立保健大学健康科学部栄養学科 准教授	三好 美紀	
○	青森県不動産鑑定士協会 監事	最上 伸子	
— (災害医療)	国立病院機構本部DMAT事務局 次長	近藤 久禎	

■医療関係者等(五十音順)

	役職名	氏名	備考
青森市医師会	会長	北畠 滋郎	
青森地域広域事務組合	消防長	佐藤 芳之	

■医療を受ける立場にある者(五十音順)

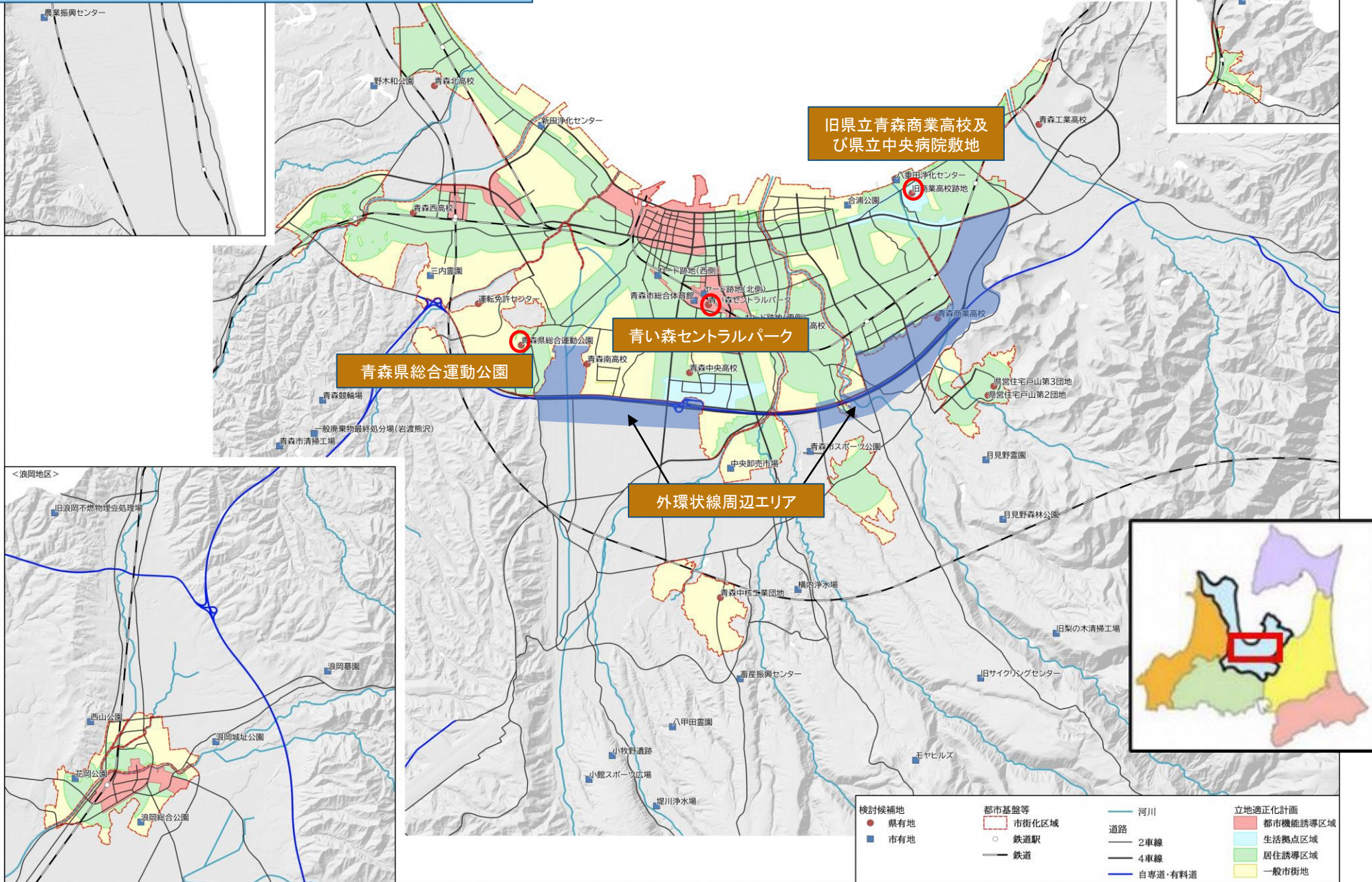
	役職名	氏名	備考
青森市町会連合会	会長	佐々木 重光	
青森市病院運営審議会	前委員	原子 睦子	

共同経営・統合新病院の検討対象地に係る外部有識者(於:第4回共同経営・統合新病院整備調整会議)

分野	役職名	氏名	備考
地震工学	弘前大学理工学部地球環境防災学科 教授	片岡 俊一	
建築学	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	河合 慎介	
災害医療	国立病院機構本部DMAT事務局 次長	近藤 久禎	書面にて意見聴取
都市計画	青森大学 名誉教授	井上 隆	
地域計画	青森公立大学経営経済学部准 教授	足達 健夫	
救急	青森地域広域事務組合 消防長	佐藤 芳之	

検討箇所(検討対象地3箇所+外環状線周辺エリア)

青森市立地適正化計画区域図 (S=1:60,000)



検討箇所の概要 (総括表)

区分		旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	青森県総合運動公園	青い森セントラルパーク	外環状線周辺エリア																																								
敷地概要	図面																																												
	敷地内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積(m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 旧県立青森商業高校</td> <td>約5.3万</td> </tr> <tr> <td>② 県立中央病院</td> <td>約5.5万</td> </tr> <tr> <td>③ 遺跡該当部分【県立中央病院敷地内】</td> <td>うち約0.8万</td> </tr> <tr> <th>条件付面積</th> <th>無条件想定面積</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>約5.5万</td> <td>約5.3万</td> <td>約10.8万</td> </tr> </tbody> </table>	名称	面積(m ²)	① 旧県立青森商業高校	約5.3万	② 県立中央病院	約5.5万	③ 遺跡該当部分【県立中央病院敷地内】	うち約0.8万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約5.5万	約5.3万	約10.8万	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積(m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 青森県総合運動公園</td> <td>約10万</td> </tr> <tr> <td>② 遺跡該当部分【青森県総合運動公園敷地内】</td> <td>うち約2.7万</td> </tr> <tr> <th>条件付面積</th> <th>無条件想定面積</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>約2.7万</td> <td>約7.3万※</td> <td>約10万</td> </tr> </tbody> </table> <p>※三内丸山遺跡からの眺望に影響を与える可能性有 →建物の高さが制限される可能性有</p>	名称	面積(m ²)	① 青森県総合運動公園	約10万	② 遺跡該当部分【青森県総合運動公園敷地内】	うち約2.7万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約2.7万	約7.3万※	約10万	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>面積(m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 青い森セントラルパーク</td> <td>約7.4万</td> </tr> <tr> <td colspan="2">【連絡通路設置などで活用可能な敷地】</td> </tr> <tr> <td>②+③+④ 青森操車場跡地周辺整備推進事業用地</td> <td>約8.3万</td> </tr> <tr> <th>条件付面積</th> <th>無条件想定面積</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>約8.3万</td> <td>約7.4万</td> <td>約15.7万</td> </tr> </tbody> </table>	名称	面積(m ²)	① 青い森セントラルパーク	約7.4万	【連絡通路設置などで活用可能な敷地】		②+③+④ 青森操車場跡地周辺整備推進事業用地	約8.3万	条件付面積	無条件想定面積	合計	約8.3万	約7.4万	約15.7万	
	名称	面積(m ²)																																											
	① 旧県立青森商業高校	約5.3万																																											
	② 県立中央病院	約5.5万																																											
	③ 遺跡該当部分【県立中央病院敷地内】	うち約0.8万																																											
	条件付面積	無条件想定面積	合計																																										
	約5.5万	約5.3万	約10.8万																																										
	名称	面積(m ²)																																											
	① 青森県総合運動公園	約10万																																											
② 遺跡該当部分【青森県総合運動公園敷地内】	うち約2.7万																																												
条件付面積	無条件想定面積	合計																																											
約2.7万	約7.3万※	約10万																																											
名称	面積(m ²)																																												
① 青い森セントラルパーク	約7.4万																																												
【連絡通路設置などで活用可能な敷地】																																													
②+③+④ 青森操車場跡地周辺整備推進事業用地	約8.3万																																												
条件付面積	無条件想定面積	合計																																											
約8.3万	約7.4万	約15.7万																																											
位置	東部	西部	中央部	外環状線周辺																																									
敷地面積	約10.8万㎡	約10万㎡	約7.4万㎡	-																																									
所有者	県	県	県	私有地																																									
用地取得費用	無	無	無	有																																									
既存建物等	校舎・体育館、現院舎等	陸上競技場、プール等	トイレ、園路等	-																																									
文化財保護	東造道遺跡	三内丸山遺跡、近野遺跡	該当なし	桑原稲荷神社遺跡(東部)																																									
用途地域	第1種住居地域	第2種住居地域	準工業地域	市街化調整区域																																									
まちづくり	都市計画マスタープランにおける拠点区域	生活拠点区域	該当なし	都市機能誘導区域	該当なし																																								
通院アクセス	①圏域人口	800m	11,740人	10,958人	26,064人	4,573人~13,164人																																							
		2km	41,965人	48,715人	92,124人	39,300人~48,626人																																							
		5km	133,586人	161,485人	218,553人	127,074人~196,679人																																							
	②自動車到達圏人口	15分	107,201人	132,582人	174,719人	101,123人~148,485人																																							
	30分	240,176人	249,102人	259,451人	219,991人~254,738人																																								
③最寄りの幹線道路の状況	1km以内	1km以内	1km以内	幹線道路沿い																																									
④路線バスの状況(市営バスも含む)	271便 〔※市営バス他路線の減便見込み:影響なし〕	95便 〔※市営バス他路線の減便見込み:10.7便〕	175便 〔※市営バス他路線の減便見込み:6.3便〕	場所により異なる 参考 市営バス:21便~34便 〔※市営バス他路線の減便見込み:29.2便~52.6便〕																																									
⑤最寄駅からの距離	矢田前駅より1.8km(徒歩22分)	青森駅より3.4km(徒歩44分)	筒井駅より1.8km(徒歩23分)	場所により異なる																																									
救急搬送	⑥救急車到達圏人口	5分	47,568人	56,273人	78,225人	35,317人~55,843人																																							
		10分	120,358人	143,130人	182,747人	100,303人~164,423人																																							
⑦高速道路からの距離	青森東IC:5.8km	青森IC:1.8km	青森中央IC:3.5km	場所により異なる																																									
災害関連	地震被災想定	日本海溝	震度5強	震度6弱	震度5強	震度5強~震度6弱																																							
		入内断層	震度6強	震度6強	震度6弱	震度6弱~震度6強																																							
	津波被災想定	日本海溝	水位4.4m	該当なし	該当なし	該当なし																																							
		入内断層	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし																																							
洪水被災想定	計画規模	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし																																								
	想定最大規模	水位0.8m程度	該当なし	水位0.8m程度	水位0.5m~3.0m																																								

統合新病院の整備に望ましい場所について（テーマごと/論点整理）

区分	論点	第4回共同経営・統合新病院整備調整会議 (共同経営・統合新病院の検討対象地に係る 外部有識者からの意見聴取)	青森市統合新病院整備場所等検討会議			
		旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地	青森県総合運動公園	青い森セントラルパーク	外環状線周辺エリア	
まちづくり 通院アクセス	都市計画 との整合	青森市都市計画マスタープランでは、既に青森市が持っている様々な機能や拠点を区域として定め、何か新しい施設や機能を作る際は、これらの区域に誘導しようという考えの下、都市機能誘導区域等を定めている。 新病院整備に当たっては、青森市都市計画マスタープランの考えに則るとともに、整合を図っていくことが望ましい。	・生活拠点区域に入っており、青森市都市計画マスタープランに沿っている。	・地区拠点地域ではなく、青森市が目指す都市計画に合致していない。	・都市機能誘導区域に入っており、青森市都市計画マスタープランに沿っている。	・地区拠点地域ではなく、青森市が目指す都市計画に合致していない。
	まちづくりに 与える影響	新病院ができることにより、新たな人の流れが発生する。一般論として、多くの住民が利用する施設は、中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりが可能となる。	・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。	・人口減少が進む中で、都市機能の分散化を引き起こすことは、都市全体の活力の空洞化を生むリスクがある。 ・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。	・郊外よりは中心部を起点にした方が患者の利便性向上や青森市の活性化につながる。 ・新駅がなければ中心部の活性化は難しい。	・人口減少が進む中で、都市機能の分散化を引き起こすことは、都市全体の活力の空洞化を生むリスクがある。 ・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。
	圏域人口・ 移動時間	自動車到達圏人口から、単純に街の端にあるより真ん中にあることが地理的に良く、多方向からアクセスすることができる。	・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 ・市の中心部から東側に寄っており、移動距離や時間において公平性が確保されるとは言えない。	・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 ・市の中心部から東側に寄っており、移動距離や時間において公平性が確保されるとは言えない。	・青森市の真ん中にあり圏域人口が一番多い。	・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 ・最も利便性が高い青森中央IC付近においても、圏域人口などをすべての数値が青い森セントラルパークに比べて劣っている。
	道路状況 (渋滞対策)	新病院の整備によって、周辺道路の利用状況が現状より増えることは容易に予想されるが、どのくらい混雑するのかは、患者などのデータを基に交通量シミュレーションを行い、どのくらいの影響が考えられるかを検討する必要がある。	・現状と同じアクセスである。	・踏切があるので非常に渋滞する場所。道路幅に当たっても民有地の用地取得が必要となるので整備に時間を要する。 ・浪館通り自体がそんなに良い交通状況ではなく、国道7号青森環状道路もそれなりに渋滞している。	・新駅整備が実現すれば、道路渋滞緩和の観点からも有益。 ・荒川通りと観光通りの渋滞を少しでも解消していくように努めるべき。 ・線路をまたぎ真っ直ぐの道路を作ることができればかなり便利になる。	・高速道路及び環状線があるので交通アクセスは良い。 ・朝の渋滞が懸念される。
	公共交通	病院は、高齢者や妊婦さんなどいわゆる交通弱者が多く利用する施設であることから公共交通であるバスが重要であり、県全体からのアクセスを考えると、バスだけではなく鉄道でのアクセスも考慮することが望ましい。	・バスの運行便が確立されており、統合新病院整備による市営バスの他路線への影響がない。		・候補地として考えるのであれば、新駅の設置は必須。	・市営バスの他路線をかなり減便する必要がある。
救急搬送	到達圏人口・ 位置関係	中心に位置することで東西南北からアクセスでき、医療機関収容までの時間が短縮され、救命率の向上が期待できる。	・救急病院の配置バランスを考慮する必要があるのではないかと。		・少しでも早く医療機関に到着するために走行時間が短縮したいと考え、中心部に医療機関があることが非常に望ましい。	・青森市の郊外に位置しており若干時間を要する。
	患者搬送環境	救急自動車の走行時間の短縮や、傷病者の安静を確保した状態で搬送するため、十分な道路幅員を確保することや、傷病者の負担にならないような平坦な路面、また、冬期間における確実な除排雪による搬送経路の確保などが望ましい。	・主要幹線道路の国道4号から至近距離にある。	・浪館通り側は、道路幅員が狭く、バス停留所も確保されておらず、普段から混雑している。 ・青森県総合運動公園までの経路である浪館通りには線路が2か所あり救急搬送を行う上で気になっている。	・冬場のセントラルパーク周辺は、通行が大変であり、救急車が大丈夫なのか心配。除雪や道路改修などの対策をしっかり講じるべき。 ・荒川通りと観光通りからのアクセスが問題。	・周辺道路は比較的整備されており、東西南北からのアクセスが可能。
災害関連	地震	・想定されている震度6クラスの地震の場合、現行の耐震基準を満たせば、躯体には影響ないという判断はできる。 ・新病院は災害拠点病院として災害時でも継続して医療提供が求められることを踏まえ、免震構造という対策を講じるにしても、現在判明している断層など危険性のある場所からなるべく離れるなど、安全性を考慮する必要がある。 ・地震は、広域的に被害が発生するので、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定するべきである。		・内断層が近隣にあることが分かっている。建物や免震や制震で建てられるのであればあまり問題とならない。	・巨大地震に備え道路幅といったさまざまな検討が必要。	
	津波	・津波は建物への浸水だけではなく、押し流された船や自動車などが衝突し、建物などを破壊するといった影響も考えられる。 ・津波により広域的に被害が発生するので、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定するべき。 ・技術的な対策を講じるならば、防潮堤などの方法が考えられるが、その分余分にコストがかかる。 ・仮に施設機能が維持されても、物資の搬入やスタッフの交替要員の受入れルートの確保など運営体制の維持が難しいと思われるので、できれば津波が想定される場所は避けるべきと考える。	・津波は地震に伴う広域災害であり病院も広範囲で被災することが想定される。 ・津波によって診療機能が低下することは避けたい方がよく、避けられるのであれば避けるべき。	※津波浸水想定区域外	※津波浸水想定区域外	※津波浸水想定区域外
	洪水	・洪水は地震や津波などと違い、多くの傷病者が災害拠点病院での診療を必要とすることは想定しにくい。 ・想定浸水深0.8m程度であれば、土地を嵩上げすることで浸水を防ぐことは技術的に可能である。 ・浸水対策で施設機能が維持できていれば、1m程度の浸水がある場合でも、備えをしておくことで災害拠点病院として機能を維持することは可能である。		※洪水浸水想定区域外		
その他	周辺環境 用地取得		【洪水被害に対する考え方】 ・近年は内水氾濫や局地的豪雨など、川の氾濫に限らず浸水被害は起こってくる状態であるので、この洪水のハザードマップを外れていればそれで良いかというわけではない。 ・洪水であれば、仮に自院が被災しても、自院以外に重症患者がたかさん出るとはならない。 ・ハザードマップで分かるリスクについては、しっかり備えるのは当たり前。トータル的に考えた場合、色々なリスクに対してコントロールされている状態が最終的にできていけば良い。 ・土地の嵩上げなどによりライフラインに関連する施設・設備を浸水から防ぐことや、会議で例示された救急車両を導入するなど、いろいろなリスクに対処策を講じることでコントロール可能である。 また、災害拠点病院の整備の考え方としては、そのような考え方ができれば問題ない。	・隣接する三内丸山遺跡を見てもらうことで入院患者に希望を与えられる。 ・ユネスコとの協議や建物の制約がある。	・アリーナの整備によって敷地が小さくなってしまった。	・まとまった用地取得まで10年程度の期間を要するのではないかと。 ・未相続の農地は持ち主が不明なため買収すると同等に難しい。 ・用地取得に費用を掛ける必要があるのかどうかという視点も大事。

統合新病院の整備に望ましい場所について（構成員意見）

※「青森県総合運動公園」及び「外環状線周辺エリア」が望ましいという構成員意見はなし

【青い森セントラルパーク】（8名）

青森公立大学足達准教授	青森商工会議所葛西専務	青森県建築士会工藤副会長	国立病院機構本部DMA T事務局近藤次長
<p>・4つの検討箇所は全て一長一短があり、強い挙げればという前置きはつづが、青い森セントラルパークが最も望ましい場所だと考える。</p> <p>・理由は3つあり、1つ目は青森市の真ん中にあるということ。ここは圏域人口が一番多いというデータが示されている。つまり病院を中心として一定の範囲内に住んでいる人数が一番多いということであり、より多くの人が行きやすいということを意味する。</p> <p>・2つ目は、青森市の都市計画マスタープランに沿っているということ。このプランは、今後のまちの姿を定めており、市民・専門家・行政が協力して作り上げたもの。それに沿わない、関係ないところに作ったとしたら、このマスタープランは何だったのか、閑居ないところに作ったとしたら、このマスタープランは何だったのか、行き当たりばったりのまちづくりをしていることになりはしないかと考える。この観点からみると、青い森セントラルパークは都市機能誘導区域に入っている。また、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地も生活拠点区域に入っており、こども良いと思う。</p> <p>・3つ目は、公共交通に関する可能性の非常に高い、秘めたところだということ。都市計画マスタープランの考え方に沿って、都市機能誘導区域や生活拠点区域といった各拠点の形成を進めるほか、これらの拠点間を公共交通で結びネットワークを作る必要がある。この場所は青い森鉄道がすぐそばを通っており、新駅と周辺からアクセスしやすい跨線橋のような周辺整備があつての話になるが、そのような考え方も合致している。</p> <p>また、高齢化が進むと、病院を利用する人もいつまでも車ばかりに頼ることができなくなるのではないかと。そういう観点からみると、青い森セントラルパークは非常に可能性を秘めた場所であると思っている。</p>	<p>・総合的なまちづくりの観点から青い森セントラルパークへの整備が望ましいと考える。</p> <p>・都市計画マスタープランとの整合性を図っていくことが必要。多くの住民が利用する施設になることから、基本的には中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりの形成にも資する。前回会議で示された、救急車到達圏人口や圏域人口、自動車到達圏人口といったデータからもそのことが言える。</p> <p>・敷地が狭隘ではないかという懸念もあるが、前回会議でも示されたとおり、全国の病院の事例を踏まえ、セントラルパークよりも敷地が狭くても、新病院と同程度の病床数をしっかりと確保している病院は現実にあることから、それはクリアできると考える。</p> <p>・外環状線周辺エリアを除く3か所の検討対象地の無条件想定面積をみても、セントラルパークは自由に確実に使える面積が一番多く、その点においても優位性がある。</p> <p>・課題としては、どこに整備する場合であっても、議論されているように、災害リスクの回避対策や災害があった場合の対策、また特に冬場の交通渋滞の回避対策といった利便性向上対策はしっかりとやっていく必要がある。</p> <p>・また、青い森鉄道の新しい駅の設置によって、広域からのアクセス改善が見込まれることから、利用者の利便性向上という観点からも、是非早期に取り組んでいただきたい。</p>	<p>・青森市の中心にあり、これからのコンパクトな青森市を目指すに当たって核となる施設になることから、議論されている候補地の中では、青い森セントラルパークがよいと思う。</p> <p>・新駅の設置と、青森市の北側からセントラルパークに入る動線について要望したい。</p> <p>具体的には、八甲田大橋と中央大橋の間を高架にし、その高架部分に新駅を設置する。病院に関しては1階がピロティ、2階がエントランスとする。そうすれば、浸水対策もつながられると思う。</p> <p>できるできないという問題はあるが、線路を高架にし、その下を車が通れるようになれば、冬場でも橋を通らずとも中心市街地から病院にアクセスできる。こういう動線をぜひ作っていただければ、なお良いのではと考えている。</p>	<p>・地震の発生が切迫している状況において、現在の両病院が免震構造を採用されていない老朽化した病院であることを考えると、候補地が複数あるにもかかわらず、新たな用地取得に着手しむやみに工期を伸ばすことは避けた方がよい。</p> <p>・また、津波は範囲での被災が想定され、多方面からの患者を受け入れなくてはならない。災害拠点病院としての機能を維持するためにも、津波が想定されるエリアは避けた方がよい。</p> <p>・残る青森県総合運動公園と青い森セントラルパークを比べたとき、青い森セントラルパークがより多くの重症患者を救うことができるのではないかと考える。</p> <p>・このエリアは洪水被害が想定されているが、近年の状況を見ると、どこでも浸水被害は起こりうる状態であり、ハザードマップを外れていけば良いというわけではない。その点は、土地の高上げなどによりライフラインに関連する施設・設備を浸水から防ぐことや、会議で例示された救急車両を導入するなど、いろいろなリスクに対し対策を講じることでコントロール可能である。</p> <p>また、災害拠点病院の整備の考え方としては、そのような考え方で進めなければいけない問題はない。</p> <p>・以上のことから、この4つの検討箇所の中では青い森セントラルパークがベストだと考える。</p>
青森市農業委員会福土会長	青森市医師会北島会長	青森地域広域事務組合佐藤消防長	青森市町会連合会佐々木会長
<p>・今回の能登半島地震がなければ100点満点でセントラルパークに手を挙げたいと思っていたが、災害時のことを考えると、青森県総合運動公園が良いと思っていた。</p> <p>・ただ、皆さんの意見を聞いた中で相対的に考えると、青い森セントラルパークが一番適しているかと思っている。第一に青い森セントラルパーク、第二には青森県総合運動公園ということをお願いしたい。</p>	<p>・急病センターを担当する医師の高齢化や参加する医師も減ってきているため、早期に新病院と連携した急病センターを作り、新しい先生方と市医師会とが協力しながら一次救急を受け入れる体制を構築したいと考えており、工期延長のおそれがある場所は避けた方がよいと思う。</p> <p>・また、急病センターを利用する視点で考えると、中心部にあつた方が、東西南北の住民、片寄ることなく利用することができると思う。</p> <p>・これらのことから、セントラルパークが良いかと思つてはいたが、敷地が狭くなつてしまったのが引かかっている。新病院の機能として研究施設や研修施設も必要になるので、敷地は広いに越したことはない。</p> <p>・そう考えると、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地になると思うが、今回の能登半島地震の津波を考えると、第一に津波の被災エリアは避けるべきだと考えている。</p> <p>・結果的に、青い森セントラルパークになると考えるが、交通アクセスや除雪は十分に対策をする必要があると考える。</p>	<p>・今回の検討対象に加えた外環状線周辺エリアを含めた4つの検討箇所については、それぞれメリット・デメリットがあり、まちづくりや救急搬送といった全てについて良好とされる候補地はないと感じている。</p> <p>・その中で、それぞれ課題はあるものの、総合的なことで考えれば、青い森セントラルパークが一番望ましいと考える。</p> <p>・ただ、利便性の向上につながる新駅、青い森鉄道をまたぐ自由通路、アクセス道路のさらなる整備などを含め、統合新病院として求められるさまざまな環境整備に努めていくことが必須であると感じている。</p>	<p>・渋滞や除雪といった道路関係の課題や津波や洪水といった災害に対して最大値で考え、それがある程度補完できる対応や対策、また、コンパクトシティということも踏まえれば、青い森セントラルパークが適地だと思う。</p>

【旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地】（2名）

青森市浪岡商工会一戸会長	青森市病院運営審議会原子前委員
<p>・海の近くにあると、津波が来たとしても、その後片付ければ海を交通網として使えるという利便性があると考える。また、現在の県立中央病院を基点として、さまざまな形の交通網ができていく。</p> <p>・青い森セントラルパークも良いと思うが、どちらかという旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が良いと感じる。</p>	<p>・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が整備に望ましい場所として良いと思う。</p> <p>・理由は3つあり、1つ目は市営バスの利便性が良いこと。今後も安定した路線と便数が期待できる。2つ目は救急搬送の面で実績があり信頼性と安心感があること。災害の面でも適切な対応策を講じることでリスクを軽減できるのではないかと考える。3つ目は周辺の自然の風景が療養するための環境に適していること。</p>

【条件付き（旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地または青い森セントラルパーク）】（2名）

青森県立保健大学三好准教授	青森県不動産鑑定士協会最上監事
<p>・公共交通を利用した通院アクセスについて、できる限り現行の市営バスを有効活用し、他路線に影響を与えないという意味での効率性という観点から、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が整備場所として望ましいと思つてきた。</p> <p>・一方、移動距離や時間の公平性といった観点から、公共交通としては、バスに加えて鉄道があることから、統合新病院の最寄り駅として新駅の設置が実現すれば、青い森セントラルパークがふさわしいのではないかと考える。</p>	<p>・外環状線周辺エリアについては、この会議を通じて、用地取得までの期間と費用についてハードルが高いことが分かったので除外と考える。</p> <p>・青森県総合運動公園については、三内丸山遺跡のリスクが大きく、こどもあまり適切ではないと考える。</p> <p>・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地については、敷地が十分に確保できるということ。次の建て替えを考えた場合でも、病院の敷地は広い方がよいと思う。</p> <p>また、現在の青森市内の市街地のバランスを考えた際、西部や南部は人々の集積がみられるが、東部は徐々に繁華性が落ち込んできており、さらに県立中央病院が移転すると、東部の落ち込み方は甚大と考えている。</p> <p>加えて、救急搬送の際に、主要幹線道路である国道4号からの距離が短いということ。今現在、実際に救急搬送も行われている安心感があるということから、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が一番だと考えていた。</p> <p>・ただ、この会議を通じて、津波の問題が、当初考えていたものよりもだいぶ深刻だということが分かった。この津波の問題がクリアできるのであれば旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が一番良いと思う。どうしても津波の問題が大きいのであれば、青い森セントラルパークになると思う。</p> <p>・青い森セントラルパークになった場合、まちづくりの観点から考えると、今のままでは、新駅もない、北側からのアクセスもできない状態で、線路の南側エリアにいろいろな施設が集中し、人がそこにはかり集まる状況に拍車をかけるだけになってしまう。</p> <p>やはり北側とのアクセスを考えると、絶対大事な条件になってくるのではないかと。新駅を設置すること、北側から自動車や歩行者がアクセスできるような方策があれば南北の流動性が出てくるので、まちづくりの観点からそれが一番良いのかなと思う。</p>